兒雷也豪傑譚（じらいやごうけつものがたり）

上の巻　十一篇

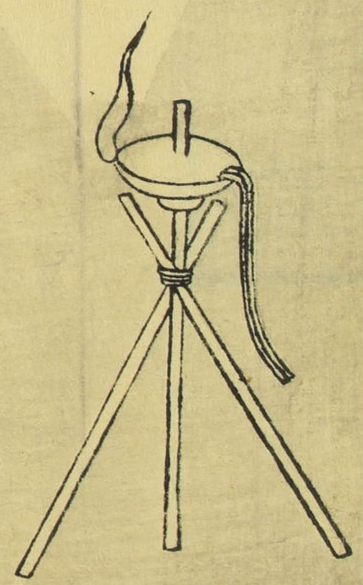
へ13
3878
21

門へ13
號3878
巻21

兒雷也
豪傑譚

上巻

柳亭作
一壽斎画



京
市
梓

ちーや おてき
智者の自適しく流行に友しを庸才い自適せずして人の好処を造て
常に流行を追ふ果敢き菓子物語も時好に恵へ行れ擬源氏
上京の絵師絵も鳥ひ何処も彼所も檀紙の売捌砂子
東の白地迄向へ何も長譚年々歳々腹相似る好男子の賊主
豊人の嫌ひ故を温て新くふ讃藻平の暦ゑと伊勢ふ因のある
[illegible]稲荷[illegible]貝ふ書更ても猫ゑ糞ゆて流せ[illegible]ても思慮を旋き迄も
然れ独り兒雷也譚も作ふ実もるく花もゑ繪組の目前と屑ふ
て兒女童[illegible]あれ意ふ心ゑ世評唱采造化ふ第十一編まで至り
ゆきと其人くふ前輯と倶ふ評を願ふとあり云

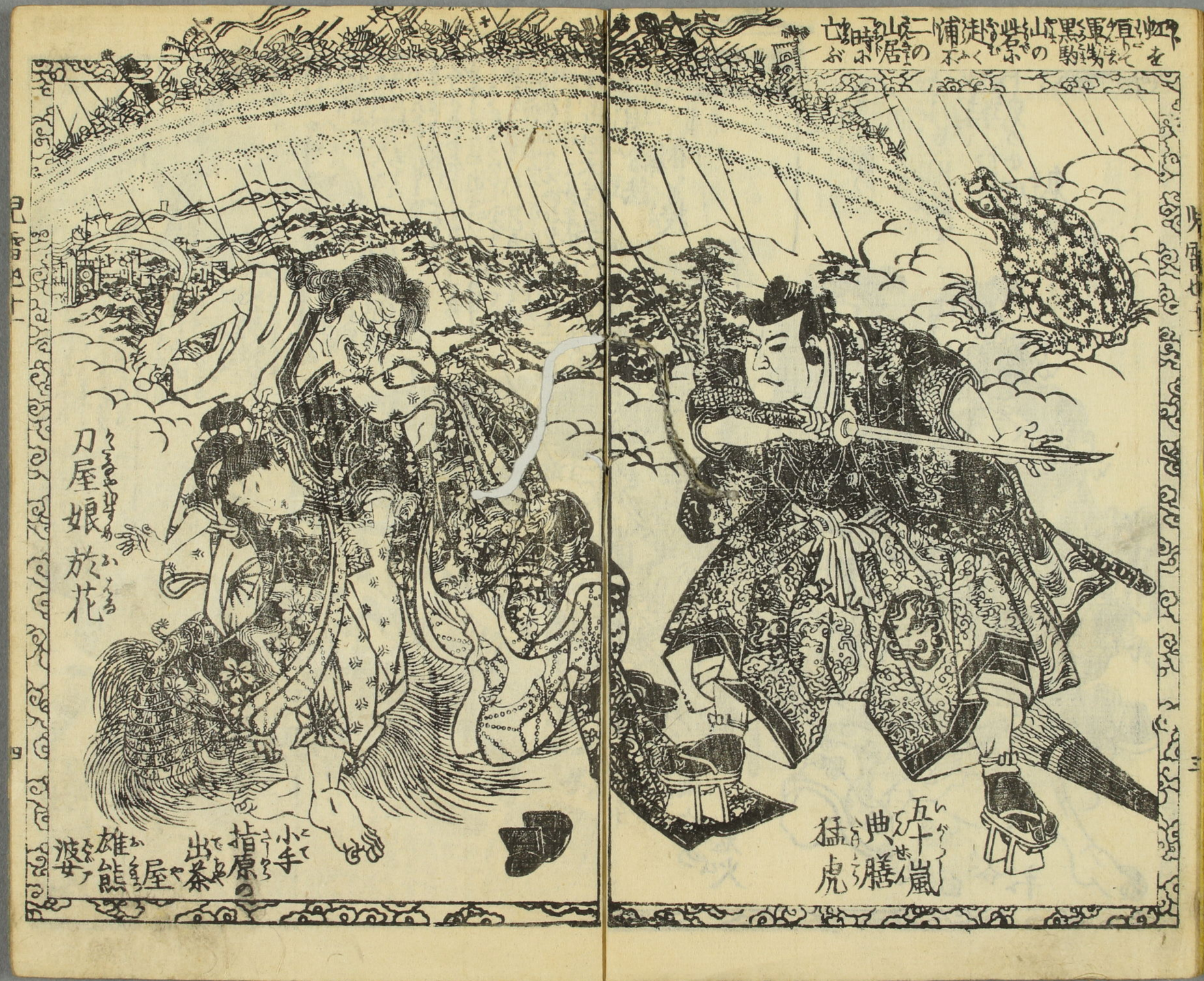
維時ニ百永戊申中春稿成
同三月春寿梓発兆

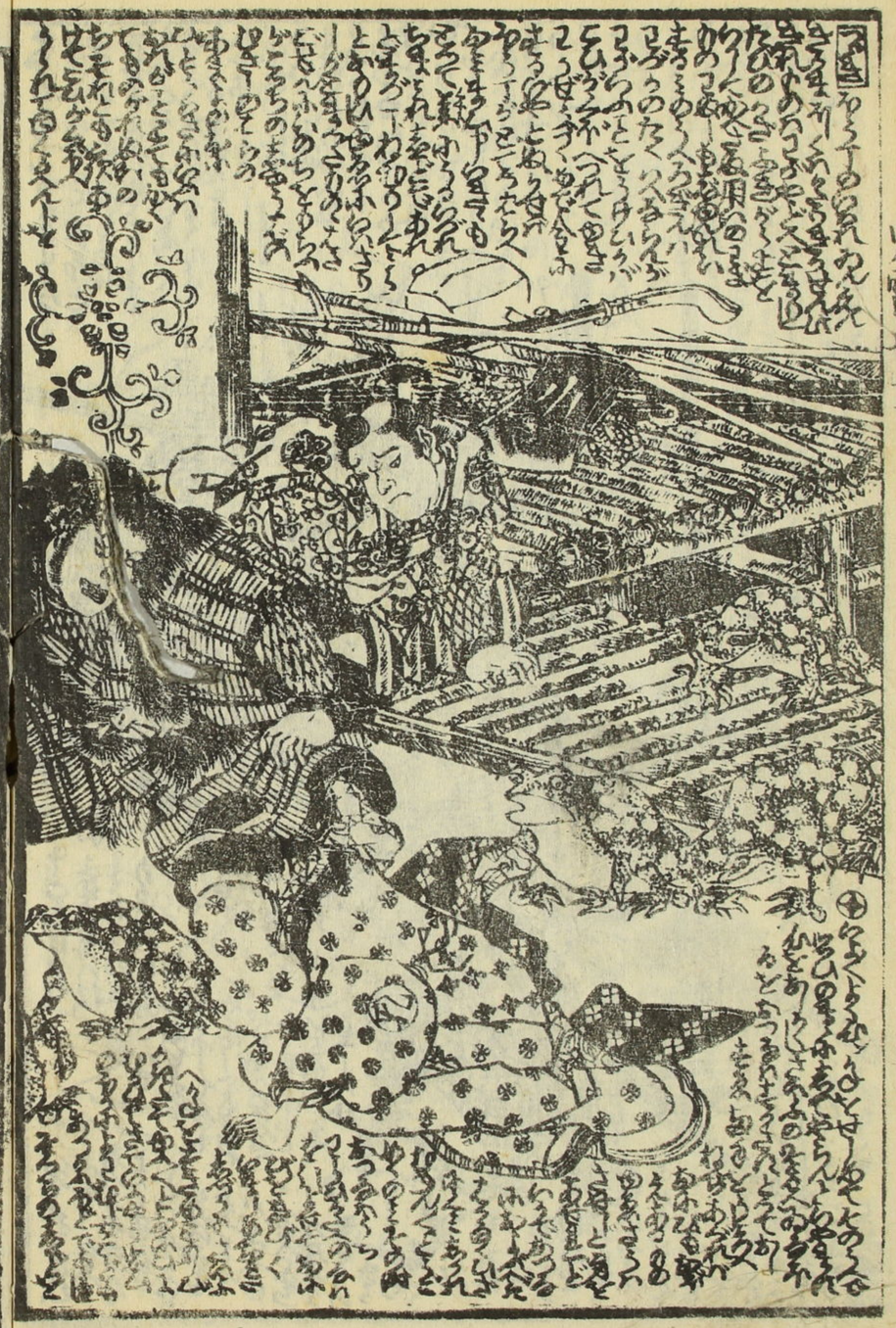
一筆芬主人誌

越中立山
地獄谷の
湯仙女
田父一蝦蟇作
本草綱目ハ口田父ハ
蝦蟇の大いなるを名也
よく蛇と喰ふ蛇
行て逐るを給と
去とあさりて
因て其尾
を啣て久
あて蛇死
尾の
後数
寸成
損ぜ
ず肉
さてハ
書矣文字
集累ね
蝦
蟇之能蛇を喰ふと見さう

事文類聚東皮
集注等ハ小細三味
線の蛇蟇。蚓蚯。蛇
ハ山之物相值ハ皆動ろす
彼も山ハ食ふと畏てへと組ス
ろ未蛇蝮のとハ我ど今世
ぐのふ之蛇縮ハ。蛇。蟇。
鼻ハ蛇を作て人の指るハ
本草綱目ハ蚓蛇蛙
蝮を畏ると云
五雜組中ハ龍の
蛇ハ蛇をあくる
皮を去ると
ハ是推ス
信州
黒嫒
山の
兒雷也
尾形周馬
弘行

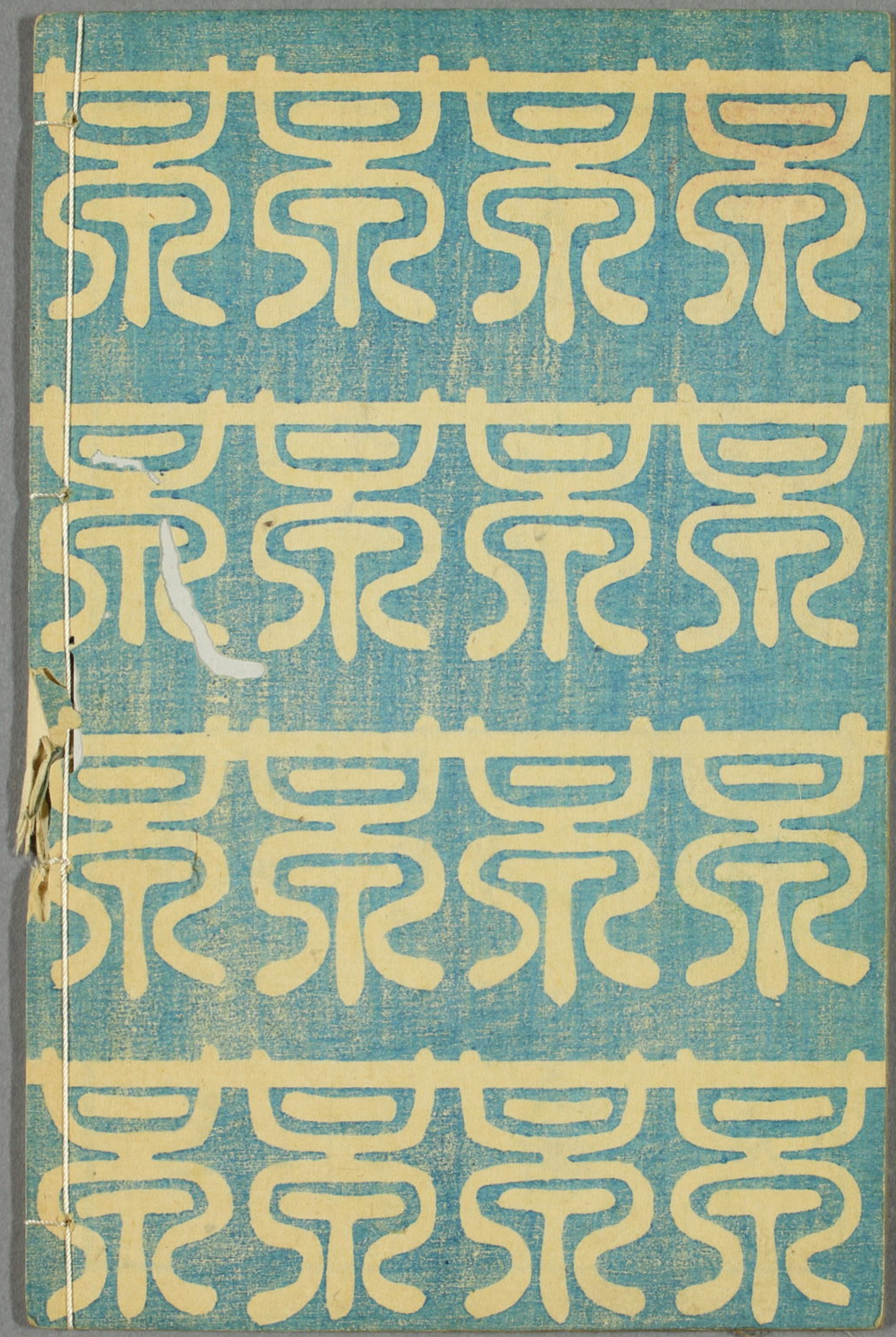
尾形弘行の妻
綱手
猛男男子も
遂に及ぶ
武藝に通暁
せざる点なし
就中水練
は如く林を
得て船を
走る波濤
を踏る素
足手負
未塵
種
骨平
无
道人の法
林を授
豪傑の
一個とる
月老因縁を
結びく
鬼の女房の
鬼神と
雨夜の
鬼火
平
吉
面
欲


五十嵐典膳
猛虎
刀屋娘於花
小手指原の出茶屋
雄熊波女



○捨松

児雷也捨松を勇見之助に預て黒姫山に帰る

一 児雷也豪傑草紙 四拾弐篇
一 休草紙 拾五篇
一 風俗洒落閻魔 拾四篇
一 黄金水大盡丸 拾七篇

書肆 地本問屋
芝神明前
和泉屋
市兵衛
銀座四丁目
同 支店